
農林水産物・食品輸出支援プラットフォームの これまでの活動について

2024年12月24日

日本台湾交流協会

日本産農林水産物・食品輸出支援プラットフォーム

ご報告事項

1. 台湾向け日本産農林水産物・食品の輸出を巡る状況
 2. 輸出支援プラットフォームの体制、活動の方針
 3. 輸出支援プラットフォームの活動報告（2023年～2024年）
-

1. 台湾向け日本産農林水産物・食品の輸出を巡る状況

世界全体への輸出状況（2023年）

順位	2023年1-12月（累計）							2023年12月（単月）				
	輸出先	輸出額 （億円）	金額 構成比 （%）	前年 同期比 （%）	輸出額内訳（億円）			輸出額 （億円）	前年 同月比 （%）	輸出額内訳（億円）		
					農産物	林産物	水産物			農産物	林産物	水産物
1	中華人民共和国	2,370	17.5	▲ 14.8	1,487	273	610	159	▲ 32.4	125	24	10
2	香港	2,365	17.4	+13.4	1,334	14	1,016	205	▲ 11.7	125	2	79
3	アメリカ合衆国	2,062	15.2	+6.4	1,383	67	613	196	+24.3	134	6	56
4	台湾	1,532	11.3	+2.9	1,161	41	330	192	▲ 7.4	142	4	46
5	大韓民国	761	5.6	+14.1	497	35	228	87	+14.1	52	3	32
6	ベトナム	697	5.1	▲ 3.8	452	7	238	73	▲ 3.3	45	1	27
7	シンガポール	548	4.0	▲ 1.1	453	6	88	53	+4.9	44	1	9
8	タイ	511	3.8	+0.9	257	10	245	46	+8.4	28	1	18
9	オーストラリア	310	2.3	+6.2	267	3	40	27	+0.2	23	0.3	3
10	フィリピン	306	2.3	▲ 2.6	151	118	37	22	▲ 23.5	12	8	3
-	E U	724	5.3	+6.4	618	19	87	68	+19.3	57	2	9

引用）農水省公表資料

台湾向け農林水産物・食品の輸出額の推移（2013～2023年）



資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

台湾向け輸出上位品目（2013～2023年）

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
1	たばこ 148億円	たばこ 122億円	たばこ 130億円	たばこ 111億円	りんご 78億円	りんご 98億円	りんご 99億円	りんご 71億円	りんご 118億円	りんご 129億円	アルコール飲料 135億円
2	りんご 60億円	りんご 68億円	りんご 99億円	りんご 98億円	アルコール飲料 53億円	アルコール飲料 59億円	アルコール飲料 62億円	ソース混合調味料 67億円	アルコール飲料 93億円	アルコール飲料 120億円	りんご 111億円
3	さんご 52億円	さんご 57億円	さんご 73億円	さんご 55億円	ソース混合調味料 53億円	ソース混合調味料 59億円	ソース混合調味料 59億円	アルコール飲料 65億円	ホタテ貝（生鮮等） 87億円	ホタテ貝（生鮮等） 112億円	ホタテ貝（生鮮等） 100億円
4	ソース混合調味料 38億円	ソース混合調味料 42億円	ソース混合調味料 51億円	ソース混合調味料 47億円	さんご 36億円	ホタテ貝（生鮮等） 44億円	ホタテ貝（生鮮等） 54億円	ホタテ貝（生鮮等） 57億円	ソース混合調味料 77億円	ソース混合調味料 80億円	牛肉 95億円
5	アルコール飲料 29億円	アルコール飲料 36億円	アルコール飲料 45億円	アルコール飲料 46億円	ホタテ貝（生鮮等） 33億円	牛肉 41億円	牛肉 37億円	牛肉 41億円	牛肉 55億円	牛肉 71億円	ソース混合調味料 87億円
6	豚の皮 27億円	豚の皮 35億円	豚の皮 33億円	ホタテ貝（生鮮等） 33億円	清涼飲料水 24億円	清涼飲料水 27億円	清涼飲料水 27億円	清涼飲料水 29億円	たばこ 38億円	清涼飲料水 35億円	清涼飲料水 41億円
7	ホタテ貝（生鮮等） 22億円	菓子（米菓を除く） 33億円	ホタテ貝（生鮮等） 32億円	豚の皮 29億円	菓子（米菓を除く） 22億円	菓子（米菓を除く） 24億円	菓子（米菓を除く） 22億円	たばこ 25億円	清涼飲料水 32億円	菓子（米菓を除く） 34億円	菓子（米菓を除く） 39億円
8	菓子（米菓を除く） 20億円	ホタテ貝（生鮮等） 19億円	菓子（米菓を除く） 24億円	菓子（米菓を除く） 22億円	豚の皮 21億円	さんご 24億円	さんご 18億円	菓子（米菓を除く） 25億円	菓子（米菓を除く） 32億円	キャビア及びその代用物 31億円	ぶどう 28億円
9	清涼飲料水 15億円	清涼飲料水 17億円	清涼飲料水 17億円	清涼飲料水 20億円	たばこ 16億円	コーヒー 15億円	スープ プロス 16億円	ぶどう 17億円	ぶどう 22億円	たばこ 27億円	ペットフード 26億円
10	ながいも 11億円	ながいも 14億円	ながいも 13億円	ながいも 13億円	粉乳 15億円	たばこ 15億円	緑茶 15億円	スープ プロス 17億円	キャビア及びその代用物 20億円	ぶどう 24億円	キャビア及びその代用物 26億円

2024年10月時点での輸出状況

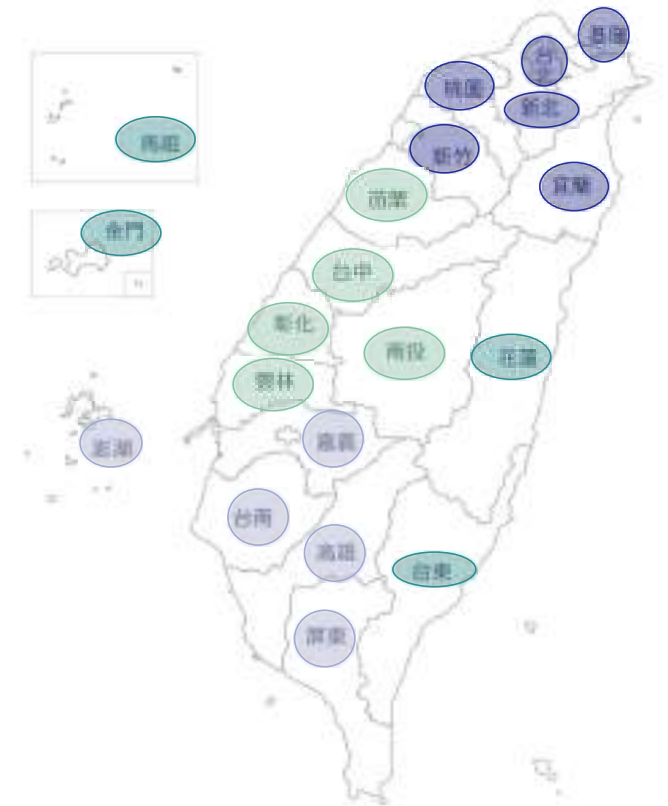
順位	2024年1-10月（累計）							2024年10月（単月）				
	輸出先	輸出額 （億円）	金額 構成比 （%）	前年 同期比 （%）	輸出額内訳（億円）			輸出額 （億円）	前年 同月比 （%）	輸出額内訳（億円）		
					農産物	林産物	水産物			農産物	林産物	水産物
1	アメリカ合衆国	1,952	17.4	+14.8	1,311	61	580	218	+12.2	140	6	72
2	香港	1,746	15.5	▲ 9.8	1,035	12	698	168	▲ 3.7	110	1	57
3	中華人民共和国	1,345	12.0	▲ 35.3	1,037	259	49	163	+10.7	133	27	3
4	台湾	1,296	11.5	+9.0	987	34	276	153	+5.9	112	3	37
5	大韓民国	709	6.3	+17.0	481	32	197	76	+8.0	52	3	20
6	ベトナム	688	6.1	+23.3	416	6	266	83	+42.4	51	1	31
7	タイ	518	4.6	+22.2	248	9	261	56	+53.9	30	1	25
8	シンガポール	460	4.1	+3.0	385	5	70	53	+28.5	44	1	8
9	オーストラリア	271	2.4	+3.8	241	2	28	29	▲ 3.3	25	0.5	3
10	フィリピン	231	2.1	▲ 10.7	129	76	27	28	▲ 2.1	14	10	3
-	E U	719	6.4	+18.6	618	18	83	70	+18.7	57	1	11

台湾における人口分布

- 台湾の人口総数は**2024年11月時点で、2,340 万人**。その3割強が北部の台北市、新北市、桃園市に集中。
- 一方で、**比較的人口の多い中南部の都市や世帯平均所得が高い都市**が存在しており、これらの都市における、更なる日本産食品の需要拡大が期待される。

北部			南部		
都市名	人口	世帯平均 可処分所得	都市名	人口	世帯平均 可処分所得
台北市	2,493,210	1,448,219	台南市	1,858,873	971,186
新北市	4,047,112	1,195,910	高雄市	2,731,891	1,091,036
桃園市	2,336,764	1,123,521	嘉義市	262,365	1,128,593
基隆市	361,497	954,117	嘉義県	479,129	802,683
新竹市	457,328	1,451,037	屏東県	789,706	909,690
新竹県	594,181	1,429,260	澎湖県	107,908	900,690
宜蘭県	449,254	940,349			
中部			東部および離島		
都市名	人口	世帯平均 可処分所得	都市名	人口	世帯平均 可処分所得
台中市	2,858,958	1,117,013	花蓮県	315,581	868,593
苗栗県	533,063	1,115,312	台東県	210,272	789,468
彰化県	1,226,560	967,506	金門県	143,658	1,081,344
雲林県	658,831	920,910	連江県	13,927	1,119,051
南投県	472,727	918,211			

(注) 人口は24年11月時点、可処分所得は2023年時点



(引用) 台湾PFLレポート 7

農林水産物・食品の輸出と訪日外客数

- 台湾への輸出は、日台関係の良さや日本産農林水産物・食品への信頼性が支えている。
- 24年10月時点で台湾からの累計訪日外客数は過去最高を記録。11月時点で台湾から約555万人が訪日。**
- 一方、新型コロナ後の訪日旅行客の回復により、台湾における日本産農林水産物・食品の消費にマイナスの影響を与えているとの事業者の声もあり、贈答需要や最高級品としての日本産品の需要のほか、日常生活における需要に対応するなど新たなニーズへの対応に取り組むことも重要と考えられる。

輸出先	訪日外客数 (24年1～11月、千人)	対2019年比伸率 (%)	輸出額 (24年1～10月、億円)	輸出額 前年同期比 (%)
アメリカ合衆国	2,486	57.4	1,952	+14.8
香港	2,397	17.5	1,746	▲9.8
中国	6,376	-28.2	1,345	▲35.3
台湾	5,553	22.3	1,296	+9.0
大韓民国	7,950	49.0	709	+17.0
ベトナム	581	25.1	688	+23.3
タイ	1,002	-13.2	518	+22.2
シンガポール	555	41.6	460	+3.0
オーストラリア	807	47.1	271	+3.8
フィリピン	710	33.6	231	▲10.7

(引用) 農水省公表資料、観光庁「訪日外国人消費動向調査」、日本政府観光局公表資料

食品小売店の状況

- 台湾ローカルの食品小売業は、寡占状態。日本産品を取扱う現地系や外資系の高級スーパーがある一方、日系の店舗も積極的に展開。

日本産食品を取り扱う主要スーパー

店舗名	事業者名	店舗数 (2024年末)
city'super	遠東都會（股）	8
Mia C'bon ^(*)	統康生活事業 （家福傘下）	22
美麗市場	新光三越百貨（股）	5
微風超市	微風超市（股）	3
裕毛屋	裕毛屋企業（股）	1

日本産食品を取り扱う日系スーパー、食品店

店舗名	日本名	店舗数 (2024年末)
樂比亞LOPIA	ロピア	5
DON DON DONKI TAIWAN	ドン・キホーテ	6
咖樂迪咖啡廣場	カルディCoffee Farm	12
日本農産品直営店 JAJA	JA全農	1

台湾における主要食品スーパー

店舗名	事業者名 （店名）	店舗数 (2024年9月末)
PX Mart	全聯實業 （全聯福利中心）	1,201
Simple Mart	三商家購 （美廉社）	809
Carrefour Supermarket	家福（股） （家樂福超市）	317
Costco ^{*3}	（好市多）	14

台湾における主要コンビニおよび店舗数

^{*}Hi-Life、OK-Martは2022年末

店舗名	事業者名	店舗数 (2023年末 [*])
7-Eleven	統一超商	6,859
FamilyMart	全家便利商店	4,234
Hi-Life	萊爾富國際	1,542
OK-Mart	來來超商	880

外食産業の動向

- 台湾における2023年の飲食店の総売上高は合計で10,279億台湾ドル（約4.7兆円）と過去最高額を記録。
- コロナの影響を受けた2020年、2021年以外は増加傾向。
- 料理ジャンル、チェーン展開の有無に関わらず、外食分野における日本製品の更なる利用促進も重要。

台湾の主要外食産業・展開ブランド

企業名	代表的なレストラン・カフェ
六角国際事業	京都勝牛、日出茶太（Chatime）
安心食品服務	モスバーガー
路易莎職人咖啡	路易莎咖啡（Louisa Coffee）
八方雲集国際	八方雲集、丹堤（dante）
悠旅生活事業（統一グループ）	スターバックス
五十嵐企業股份有限公司	50嵐
清心福全股份有限公司	清心福全
王品餐飲	王品牛排、Tasty、陶板屋、原燒、聚北海道昆布鍋、藝奇、夏慕尼、品田牧場等
漢來美食	漢來海港、漢來名人坊、漢來蔬食、漢來上海湯包等
饗賓餐旅	饗饗、饗食天堂、開飯川食堂、饗泰多等
瓦城泰統	瓦城非常泰、1010湘、大心等
乾杯（KANPAI）	乾杯燒肉、老乾杯、和牛47、高木和牛食堂等
開曼美食達人	這一鍋、85度C

多店舗展開を図る日本発チェーン店（店舗数は2022年末）

ブランド名	店舗数	ブランド名	店舗数
寿司		ラーメン	
くら寿司	50	らあめん花月嵐	22
スシロー	35	博多一風堂	16
はま寿司	9	東京豚骨ラーメン 池袋屯ちん	9
がってん寿司	6	太陽のトマト麺	6
美登利寿司	2	ラーメン凪	5
焼肉		らーめん山頭火	4
牛角	18	しゃぶしゃぶ・すき焼き	
焼肉ライク	8	モーモーパラダイス	29
とんかつ		牛丼	
とんかつさぼてん	38	吉野家	62
和ごころとんかつあんず	24	すき家	62
とんかつ・カツ丼 かつや	7	松屋	4
とんかつ専門店「かつ政」	7	天丼	
とんかつまい泉	4	金子半之助	7
とんかつ かつ勢	4	餃子	
定食等		大阪王将	5
大戸屋	44	餃子の王将	2
やよい軒	21	うどん	
まいどおおきに食堂	5	丸亀製麺	49
東京純豆腐	5	宮武讃岐製麺所	7
ファミリーレストラン		カレー	
ジョイフル	9	カレーハウスCoCo壱番屋	28
藍屋	2	串揚げ	
		串家物語	4

2. 輸出支援プラットフォームの体制、活動の方針

輸出支援プラットフォームの体制

プラットフォーム

日本台湾交流協会

【台北事務所】

- ・ 服部副代表
- ・ 友金主任
- ・ 野田主任
- ・ 川名主任
- ・ 江田主任
- ・ 現地職員
- ・ 海外コーディネーター（6名）

【高雄事務所】

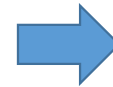
- ・ 是枝次長
- ・ 松井主任



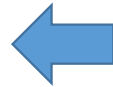
各事業の効果的な実施のため、連携

JETRO本部（農林水産・食品部）
JFOODO

情報提供・
相談 等



活動計画に
係る助言、
要望 等



現地で日本産農林水産物・食品に 関わる皆さま

- ・ 日系、台湾系の食品関係業者
（小売、飲食、メーカー、インポーター等）
- ・ 台北市日本工商会食料物資部会
- ・ IEAT（台湾輸出入事業者団体）
- ・ 地方自治体の台北事務所
- ・ 地方銀行の台北駐在員事務所

輸出支援プラットフォームの活動の方針

＜台湾輸出支援 P F の活動の柱＞

- (1) **支援体制の構築と情報発信の強化** (支援体制の強化、レポートの更新、協会SNSを通じての発信等)
- (2) **新たな商流の開拓** (地方都市含むバイヤー調査、現地輸出入業者との商談会等)
- (3) **台湾消費者への販売促進、プロモーション** (地方都市等でのPRイベント開催)



＜2024年度の活動方針＞ (要点抜粋)

- 今後更なる輸出拡大を目指すに当たり、台北市、新北市といった北部の大都市のみならず、**台中、台南・高雄といった地方都市**における日本産食品のPRや商流の開拓に重点的に取り組む。
- **複数の事業者や都道府県、品目団体と連携し、オールジャパンでの取組**として進めていく。
- 日本国内の事業者向けに、レポートやメール等での発信により、**現地発のタイムリーな情報発信を行う**。

(参考) 活動実績 (2024年設定)

- レポート・ビジネス短信等による発信件数
- 品目団体や複数の都道府県と連携した日本産食品のフェアの企画・実施件数
- 台北市進出口商業同業公会webページの「全球貿易商機」への掲載数
- Japan Streetにおける台湾バイヤーの登録数
- 輸入規制の緩和・撤廃に係る台湾当局への働きかけ (随時)

3. 輸出支援プラットフォームの活動報告（2023年～2024年）

活動報告① 支援体制の構築と情報発信の強化（1）

●輸出に関するレポートの作成および輸出

2023年度、台湾における市場動向や規制、トレンド等の情報をまとめた「全体版レポート」及び品目別レポートとして「水産物レポート」を作成し、交流協会HPの輸出支援プラットフォームページで公開済。

2024年度、調味料、野菜、酒類の作成を予定。

その他、プラットフォームで実施したイベントのアンケート結果を掲載。

（フルーツ夏祭り（2023、2024年度作成）、台中での日本産食品フェア（2023年度作成））

（リンク） <https://www.koryu.or.jp/business/platform/>



全体レポート（2023年度）



水産物レポート（2023年度）



フルーツ夏祭りのアンケート結果レポート（2024年度）

活動報告① 支援体制の構築と情報発信の強化（2）

● IEATウェブサイトにおける日本産品情報の掲載

台湾最大の輸出入事業者団体IEATのウェブサイトでの日本産品の情報提供を実施。累計約200件を登録。

https://www.ieatpe.org.tw/trade/board.aspx?utm_campaign=header

今後、掲載品目の増加、バイヤーへの情報発信強化を予定。

● 台湾バイヤーの発掘調査、人脈の拡大

2024年度、地方都市含む台湾全域における食品バイヤーを発掘、リスト化する調査事業を実施。

プラットフォームからの情報発信や情報収集活動の基礎として活用を予定。

● SNSでの情報発信

協会Facebook（フォロワー21万人）での日本産品の魅力やPRイベントの情報発信を実施。

● 海外コーディネーター事業

6名のコーディネーターによるレポート作成、ブリーフィング等の支援を実施。

<https://www.jetro.go.jp/services/coordinator/>



IEATウェブサイト
商品掲載ページ

活動報告② 新たな商流の開拓（１）

● FOOD TAIPEIにおける商流拡大支援

JETRO本部と連携し、FOOD TAIPEIにジャパンパビリオン出展。
2023年度は57、2024年度は64の事業者が出展（団体含む）。
開催前にコーディネーターによる出展者向けの説明会を実施するとともに、
開催中はブースの巡回、商談のサポートを実施。
2024年度、**日本産食品の出展ブース（計108件）のリーフレットを作成し、**
バイヤー向けに配布し、来場促進に繋げた。



リーフレット



ジャパンパビリオン
（2024年度）

● 「日本酒の日」と連携した酒類PRイベントの実施

2024年10月、日本酒造組合中央会と連携し、
高雄で酒類商談会を実施。
日本産酒類の代理店や酒蔵等、10件が出展。
また、**台湾中南部のバイヤー24名を招聘し、**事前マッチングを実施。
出展者からは、「他イベントと異なり時間をかけやり取り出来た」
「早速次に繋がりそうな話が複数件得られ、手応えがあった」等の声、
バイヤーからは、「南部の市場でのイベントは珍しく、可能性がある」
「バリエーションが多かった」「今後も同様のイベントに期待」等の
声が聞かれた。



日本酒商談会@高雄の様子

活動報告② 新たな商流の開拓（2）

● サンプルショールームの展開

JETRO本部と連携し、**日本産食品のサンプルショールーム**をオープン。
今年度は24年11月8日より、台北にオープンし、開幕式で試食提供等実施。
約80社、160件の商品を展示。プラットフォームでバイヤーへの周知を支援。

● IEAT酒類展示会への出展

2023年よりIEAT主催の酒類展示会で**交流協会ブース**を出展。
日本産酒類の出展ブースと連携し、展示品をまとめたカードやリーフレットを配布し、**オールジャパンでの日本産酒類PR**を実施。

● 調理師協会と連携した日本産水産物のPRの実施

2024年3月、**台湾国際若手調理師協会（TJCA）**と連携し、
料理人及び調理師学校生徒を対象とした**日本産水産物のセミナー**及び
料理人・バイヤー向けの**日本産水産物展示商談会、レストランフェア**を実施。

● IEATと連携した商談会の実施

台湾最大の輸出入事業者団体 IEATと連携した商談会を来年3月中に実施予定。
地方都市含め、幅広いプレイヤーの参加を図る予定。



サンプルショールーム開幕式
（2024年度）



調理師協会と連携した水産物PR
（2023年度）

活動報告③ 台湾消費者への販売促進、プロモーション（１）

● フルーツPRイベントの実施

フルーツPRイベント「**日台フルーツ夏祭り**」を開催し、品目団体及び都道府県と連携しオールジャパンでの日本産フルーツのPRを実施。昨年度は台北で開催し、2日間で9,000人近くが来場。蔡英文総統（当時）もブース来訪。

今年度は、高雄市の流行音楽中心 海風廣場で開催。

102件のブースが出展。高雄市政府の発表によると10万人以上が来場。高雄市長、台湾農業部長、当協会片山代表らが開幕式に出席。「想定以上の売上が得られた」「高雄における自社ブランドのPRにつながった」「B to Bの側面での成果も得られた」との声があった。



フルーツ夏祭り（2024年）の様子

● 日本産食材サポーター店でのプロモーションイベント

JETROが認定する「**海外における日本産食材サポーター店**」において、**日本産食品（青果物や牛肉、加工食品等）を対象としたプロモーションを実施。**昨年度は小売店で2件のプロモーションイベントを実施しており、今年度についても2件実施予定。



日本産フルーツフェアを実施

活動報告③ 台湾消費者への販売促進、プロモーション（2）

●台中での日本産農林水産物・食品プロモーションイベントの開催

24年3月、台中市の商業施設で日本産食品のプロモーションイベントを開催。
2日間で延べ12ブースが出展し、概算2万人以上が来場。



●すし展と連携した地方都市での水産物PRの実施

国際交流基金がすし文化の紹介のため、**新竹市及び台南市で開催する「すし展」**において、JFOODO、品目団体等の協力を得ながら
日本産水産物に関するPR展示を追加。

また、**台湾若手調理師協会（TJCA）と連携し**、すし展の会場付近でのレストラン（各都市15店舗程度）において、**日本産水産品のフェア**を実施。



●JFOODOプロモーション事業

JFOODOでは、**水産物、青果物を対象品目とし、台湾消費者へのPRを実施。**

水産物については、2023、2024年度ともホタテ・ブリ(ハマチ)・タイの3品目を対象に、台湾の外食店でのフェアを実施。

青果物については、2023、2024年度ともフルーツ夏祭りに出展。

2024年度は、ハローキティと連携した消費者訴求も実施。



活動報告④ 相談対応等

●規制相談対応 （随時）

交流協会HPの輸出支援PFページに窓口を設置済。

メールアドレス：taiwan-pf-k1@tp.koryu.or.jp

HPリンク <https://www.koryu.or.jp/business/platform/>

事業者の皆さまから寄せられる通関トラブルやご相談について、台湾の当局に対して規制内容の確認、改善を要望。

また、規制の改正等があった場合は随時メールやHPにおいて発信を実施。

また、放射性物質に係る食品輸入規制の撤廃や牛肉の月齢撤廃などの早期実現に向けて、あらゆるレベルで台湾当局に働きかけ。

●職員によるブリーフィング対応 （随時）

台湾への輸出に取り組む事業者向けのブリーフィングを実施。

●「農林水産物・食品の模倣品等対策相談窓口」の設置

日本の農林水産物・食品の模倣品について、模倣品に関する専門家への相談事業のご案内、模倣品等に関する疑義情報提供を受付。

活動報告⑤ 輸出環境の整備に関する対応（１）

1. 放射性物質に係る食品輸入規制の緩和

- 当協会や工商会からの働きかけの結果、2024年9月、これまで輸入停止となっていた5県（福島県、茨城県、栃木県、群馬県及び千葉県）の野生鳥獣肉、きのこ類、コシアブラについて輸入停止を解除。また、5県以外の放射性物質検査報告書の添付義務を撤廃。
- 引き続き、規制の全廃に向けて台湾当局への働きかけを実施。

2. いちごの残留農薬基準値の見直し（緩和）

- 日台の残留農薬基準値の整合を図るため、日本政府は科学データとともに残留農薬基準値の見直しを要請。
- 2022年及び2023年冬、台湾向けいちごについて基準値超過事例が多発し、日本産いちごの安全性への疑念や基準値見直しに批判的な世論が高まったものの、台湾当局への働きかけにより、2024年3月に基準値を見直し（緩和）。これにより、基準値超過による廃棄、シップバックのリスクは大きく低減。
- 一方、他の青果物についても残留農薬基準値の超過事例が発生していることから、いちごを含む青果物全体で引き続き、基準値の遵守を注意喚起。

活動報告⑤ 輸出環境の整備に関する対応（２）

3. 「豚脂」の原産国表示の運用修正

- 台湾では、豚肉及び豚肉製品（加工食品原料含む）に対して、原産国表示を義務付け。
- 事業者から差別的な扱いを受けている旨の相談を受け、事実関係を確認したところ、日本産豚脂のみ都道府県までの表示を求める運用となっていた。
- 当該運用の撤廃を要求し、2024年4月、台湾当局は原産国までの表示に運用を修正。
- 調味料類（カレールーやラーメンスープ等）の輸出への悪影響を防止。

【修正前】

成分：水、馬鈴薯、胡蘿蔔、洋蔥、麵粉、菜籽油、**猪油（日本長野縣）**、砂糖、咖哩粉、酵母抽取物、鹽、番茄泥、洋蔥粉、綜合香辛料（小豆蔻、肉豆蔻、小茴香、丁香、大茴香、薑、芹菜籽、芥籽）、大蒜

【修正後】

成分：水、馬鈴薯、胡蘿蔔、洋蔥、麵粉、菜籽油、**猪油（〇〇）**、砂糖、咖哩粉、酵母抽取物、鹽、番茄泥、洋蔥粉、綜合香辛料（小豆蔻、肉豆蔻、小茴香、丁香、大茴香、薑、芹菜籽、芥籽）、大蒜

4. 日本産乳・乳製品の輸出検疫証明書に関する協議

- 2024年11月、日本でのランピースキン病の発生を受け、日本産乳・乳製品の輸出検疫証明書の内容修正が必要となった。
- 台湾当局への迅速な通報及び日本産乳・乳製品の高い衛生管理の状況を説明し、発生から5日で修正内容に合意が得られ、輸出再開が認められた。

活動報告⑥ 活動実績

●レポート・ビジネス短信等による発信件数

目標件数 10件以上（年度） ⇒ **26件**（12月20日時点）

●品目団体や複数の都道府県と連携した日本産食品のフェアの企画・実施件数

目標件数 10件以上（年度） ⇒ **10件**（12月20日時点）

うち2～3件を地方都市で実施 ⇒ **4件**（12月20日時点）

●台北市進出口商業同業公会webページの「全球貿易商機」への掲載数

目標件数 50件以上（年度） ⇒ **64件**（12月20日時点）

●Japan Streetにおける台湾バイヤーの登録数

目標件数 5事業者（年度） ⇒ **12件**（12月20日時点）

●放射性物質に係る輸入規制、牛肉の月齢制限、残留農薬基準値の緩和・撤廃に係る当局への働きかけ（随時） （2024年度実績について、22～23ページに記載）